

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

| |
|---|
| <p>「高めよう自分力、開こう未来への扉」をスローガンに、授業や行事・部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動を通して、一人ひとりの能力を最大限に高め、次に掲げるめざす学校像の実現に最善を尽くす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 勉強と部活・行事の両方とも本気で取り組む学校（多様性とバランス） 2. 希望する進路を実現する学校（自主性と挑戦する気概） 3. 地域から愛され信頼される学校ー開かれた学校（社会性につながる力） |
|---|

2 中期的目標

| |
|--|
| <p>1. 授業の充実と進路の実現</p> <p>(1) 「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業アンケートを軸にしたPDCAサイクルの徹底による授業改善を進める。 ② 教師力（教科指導力+人間力）を向上させる。 ーこれまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取り組みを進める。 ー教育センターや他校種との連携、教育産業の活用を図る。 ③ 「着想・展開・発表する力」を育む取り組みを進める。 ーアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する。 ー発表の舞台を作る。（学級読書会、英語プレゼン大会、情報プレゼン発表など） <p>※学校教育自己診断（生徒）における「授業はわかりやすい」の肯定率（H28 68%）を、H31には75%以上をめざす。</p> <p>(2) 進学実績の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「授業・週末課題・講習」の一体化と充実を図る。 ② 「自学力」の育成ーもっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。 ③ 「チーム国公立」の組織化ー国公立進学希望者の進路を実現させる。 ④ 学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた準備を進める。 <p>※センター試験受験者数（H28・117名→H31・140名）、国公立現役合格者（H28・9名→H31・20名）、関関同立現役合格者（H28・107名→H31・120名）をめざす。</p> <p>2. 自主自律の精神の涵養</p> <p>(1) 「自主・自律の力」を育成するとともに、「つながることの大切さ」を実感させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 勉強と部活・行事の両立 ー学習・生活習慣を確立させる。 ② 生徒会活動の自主運営 ー学校祭等の自主企画・運営を行い、生徒に集団活動でのみ味わえる成就感、達成感を体験させる。 ③ 国際理解の推進 ー海外修学旅行、国際交流事業に取り組む。 <p>※学校教育自己診断（生徒）における「生徒会活動、ホームルーム活動は活発である」の肯定率（H28 72%）を、H31には80%以上をめざす。</p> <p>(2) 教育相談体制の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① SCを積極的に活用し、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り、学校全体で支えていく体制を充実させる。 <p>※学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率（H28 74%）を、H31には80%以上をめざす。</p> <p>3. 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携</p> <p>(1) 機能的な組織運営と学校情報の積極的発信</p> <ol style="list-style-type: none"> ① チームワーク・フットワーク・ネットワークを生かした機能的な校務運営に務める。 ② ミドル・アップダウン・マネジメントを有効に機能させる。また、積極的なOJTを通じて次代を担うリーダーの育成に努める。 ③ 学校説明会、HPなどを活用して、積極的な情報発信に努める。 ④ 学校協議会、PTA、同窓会との連携を強化する。 <p>※学校教育自己診断（教職員）「学校行事や校務分掌等において、PDCAが実施されている」の肯定率（H28 75%）をH31には85%以上をめざす。</p> <p>(2) 地域連携の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などへの積極的な参加 <p>※学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動などで、保護者や地域の人々と関わる機会がある」の肯定率（H28 41%）をH31には55%以上をめざす。</p> |
|--|

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>保護者の回収率は前年度より高く（88→91%）なり、各問の肯定率もほぼ同じであった。「本校に進学させてよかった」が93%と、高い評価を得た。生徒は31問中18問において3年連続で肯定率が上昇、特に1年生が27問において前年度より高くなった。「学校行事は楽しい」は91%と極めて高い。</p> <p>【学習指導等】 「教え方に工夫をしている先生が多い（生徒）」55→63%、「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある（生徒）」58→64%に増加した。「1日1時間以上家庭で学習している（保護者）」は56→52%に減少した。さらなる授業改善に取り組むとともに、家庭学習のあり方を再点検したい。</p> <p>【生徒指導等】 「安心して学校生活がおくれている（生徒）」88→90%、「悩みや相談に親身に応じてくれる先生が多い（生徒）」74→76%、「担任以外の先生にも気軽に相談できる（生徒）」54→65%、「生徒指導について満足している（保護者）」79→81%と増加した。教職員間で情報共有をしっかりと行い、「厳しく寄り添う」指導を続けていきたい。</p> <p>【学校運営】 「学校行事や校務分掌等においてPDCAが実施されている（教職員）」75→70%に減少した。課題解決に向けて、日常的に教職員間で気軽に意見交換ができる場を増やすとともに、新たなミドルリーダーの育成を図っていきたい。</p> | <p>第1回（6/6） ○授業見学 ・授業はどのクラスも真剣に受けていた。もう少し生徒の大きな反応があってもよいのではないかと。実技科目も動画を見せるなど工夫している点は良い。</p> <p>○H29 学校経営計画について ・進学実績の向上が、よりきめ細かな生徒一人ひとりの指導につながり、さらにより良い方向に進んでいくものと思われる。新テストの導入や、学習指導要領の改訂等の準備も進めていってもらいたい。</p> <p>第2回（9/9） ○文化祭見学 ・雰囲気が良い。挨拶をしてくれる。来校者も多く、生徒も充実感があるのではないかと。 ・おそろいのTシャツをつくるなど、全員参加で活気があって良い。</p> <p>○H29 学校経営計画、進捗状況について ・概ね計画通り進んでいる。地域連携の推進については、地域の催しとのスケジュール調整が課題である。</p> <p>第3回（1/30） ○H29 学校経営計画、自己評価について ・全体として文武両道の取り組みが実現できている。生徒指導もきめ細かな対応ができている。さらなる授業の工夫に努めるとともに、高大接続改革に向けた準備も進めていってもらいたい。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---------------------------|--|---|---|--|
| 1 授業の充実と進路の実現 | (1)「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」に取り組む (2)進学実績の向上 | ○進路希望の実現につなげる組織的な授業改善 5月 個人・教科による授業改善テーマ設定 7月 第1回授業アンケートの実施 8月 個人・教科にフィードバック 9月 個人・教科から振り返りシートの提出 11月 公開研究授業 12月 第2回授業アンケートの実施 1月 個人・教科フィードバック 1月 個人・教科から振り返りシートの提出 2月 成果発表(国・数・英・社・理他) ○教科の枠を超えたベテラン教員と初任者等の授業交流を積極的に行い、ベテランの指導方法のノウハウを継承するとともに、若手の持つ最新の知識やスキルを交換し、学校全体の授業力の向上をめざす。 ○ICT機器活用の環境整備を図る。 ○他校種との連携や教育産業の活用を図る。 ○英語プレゼン大会を1年で実施。 ○情報プレゼン発表を充実させ、ビジネスアイデア甲子園出場をめざす。 ○「授業・週末課題・講習」の一体化と充実を図るとともに、家庭学習の時間を増やす。 ○「チーム国公立」の年間活動計画の作成。 ○学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた準備を進める。 | ・生徒自己診断「わかりやすい授業」68→70%以上 ・授業アンケート質問9(知識や技能が身についた)学校平均 3.14→3.17 ・生徒自己診断「教え方に工夫」55→58% 「発表する機会」58→60% ・教職員自己診断「授業規律を身につけさせている」83→86% ・ICT機器を活用した研修会を2回実施 ・地元の中学校等と連携し、授業見学を2回実施 ・1年英語展開、2年数学授業、週末課題、講習の実施状況 ・保護者自己診断「1時間以上の家庭学習」56→60% ・チーム国公立の活動内容と参加者数 ・センター受験者(117→120名以上) 国公立現役合格者(9→12名以上) 関関同立現役合格者(107→110名以上) | ・「わかりやすい授業」68→69%に微増。(△) ・授業アンケート質問9(知識や技能が身についた)学校平均は3.14→3.15に(△) ・授業アンケート全問で肯定率が昨年を上回る。(◎) ・「教え方に工夫をしている」55→63%に増。(◎) 「発表する機会」58→64%に増。(◎) ・「授業規律を身につけさせている」83→89%に増。(◎) ・ICT機器の研修会は2回実施。機器の全学年への配備が課題。(○) ・地元の中学校2校へ若手教員を授業見学に派遣。(○) ・1年英語表現Iを習熟度別に2展開、プレゼン大会で成果を上げる。情報はビジネスアイデア甲子園で学校賞を受賞。(○) ・2年数学IIを数学Bの選択の有無で分けて実施。進路に結びついた指導ができた。(○) ・1,2年で年間約20回週末課題(国数英から2教科ずつ)に取り組む。提出率は80~95%。(○) ・3年の講習は昨年より多い19講座(早朝6、放課後等13)を開講。(○) ・「1時間以上の家庭学習」56→52%に減。1年が37%と低いのが課題。(△) ・チーム国公立4回集会を開催。毎回約40人が参加推薦入試受験者6→10に増。(○) ・センター受験者 117→156(◎) ・国公立現役合格 9→16(◎) ・関関同立現役合格 107→86(△) |
| 2 自主自立の精神の涵養 | (1)「自主・自律の力」を育成するとともに、「つながることの大切さ」を実感させる (2)教育相談体制の充実 | ○生指部と学年団の連携により、朝の登校指導を強化し、遅刻を減らす。 ○生徒会活動の自主運営に取り組む。(学校祭他行事) ○海外修学旅行(台湾)、国際交流事業の実施。 ○学年団会議等で生徒の情報交換を密にし、SCとの積極的な連携を図る。 | ・遅刻総数の5%削減 ・生徒自己診断「生徒会・HR活動が活発である」72→75% ・修学旅行生徒満足度75%以上に ・生徒自己診断「親身になって応じてくれる先生が多い」74→76% | ・遅刻総数2201(学年末)で昨年とほぼ同じに止まる。(△) ・「生徒会活動、ホームルーム活動は活発である」72→74%に。(△) ・「学校行事は楽しい(生徒)」90→91%、「学校行事によく取り組んでいる(保護者)」89→90%(○) ・台湾修学旅行の生徒満足度88%に。(◎) ・アメリカ・台湾の高校と相互訪問し、交流を深める。(◎) ・「親身になって応じてくれる先生が多い」74→76%、「担任以外の先生にも気軽に相談できる」54→65%(◎) |
| 3 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携 | (1)機能的な組織運営と学校情報の積極的発信 (2)地域連携の推進 | ○学年団と分掌等の連携強化を図る。 ○前年度の総括に基づき、「PDCA」サイクルを意識して回していく。 ○OJTを重視し、若手教員の育成を図る。 -「初任研」と「10年研」を連動させる -広報活動への積極的な参画 ○若手教員の経営参画意識を高めるための座談会を開催する。 ○HPの内容を充実させ、アクセス数の更なる増加をめざす。 ○PTA、同窓会との連携を強め、創立100周年(2023年)に向けた準備を進める。 ○地域活動への積極的参加 ・早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などの取組みに参加し、地域の活性化に貢献する。 | ・教職員自己診断「PDCA」75→80% 「情報交換」83→85% ・各OJTへの取組み人数 ・座談会の議題と討論内容等 ・HPの内容充実とアクセス数の増加 ・生徒自己診断「授業や部活動で保護者や地域の人々に関わる機会がある」41→45% | ・「PDCA」75→70%、「情報交換」83→80%に減。(△) ・11月を公開研究授業月間とし、2人の初任者の研究授業を実施。各教科で授業を公開(19講座)し、若手とベテラン教員の相互交流を図った。(○) ・2月に授業の成果発表会を実施(2年目2人)。(○) ・「10年研」該当者がメンターとなって、「初任研」該当者に授業づくりや保護者対応等を助言。(○) ・校外での学校説明会などの広報活動に若手教員14名中10人が参加。(△) ・若手教員の座談会を3回実施。首席、ベテラン教員も加わり、学校行事、日常の生徒指導等について意見交換。(○) ・HPアクセス数は2月末で約34万回、昨年より24万回増。「ホームページをみたことがある(保護者)」81→85%(◎) ・HP管理者の若手教員参画者数、5→10人に増。ノウハウを受け継ぎ、内容の充実を図る。(◎) ・「授業や部活動で保護者や地域の人々に関わる機会がある」41→49%(◎) ・近隣の保育所と連携し、「絵本の読み聞かせ」を新たに実施。(◎) |